

2011年5月10日

2011年度 大学英語教育学会 (JACET) 関西支部  
支部総会・第1回講演会開催のお知らせ  
**First Chapter Lecture & General Assembly Meeting of the 2011 Academic Year**  
**(Special Lecture Meeting by invited speakers)**

社団法人大学英語教育学会 関西支部  
支部長 野ロジュディー

会員の皆様には益々ご健勝のことと拝察いたします。

さて、今年度の第1回講演会を下記の要領で開催したく存じます。奮ってご参加いただきますようご案内いたします。講演会に先立ち、支部総会を開催いたします。こちらにも是非ご出席くださいませ。

記

日程／Date : 2011年6月18日(土曜日) June 18, 2011

場所／Venue : 同志社大学 今出川キャンパス 寧静館5階会議室

Doshisha University, Imadegawa Campus

([http://www.doshisha.ac.jp/access/ima\\_access.html](http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_access.html))

次第／Program : 15:00～15:30 支部総会 / General Assembly Meeting

15:30～17:00 支部講演会 / Chapter Lecture Meeting (受付は 15:15～)

※ 支部総会が終了するまで、少々お待ち頂くことがあるかもしれません。ご了承ください。

支部講演会の概要

**Abstracts for Chapter Lecture Meeting**

形式 : 招聘講師による講演会 Lecture by invited speakers

参加費／Fee : JACET 会員は無料、非会員は 500 円

JACET member, free; nonmember, ¥500.

使用言語／Main language for presentations : 日本語 Japanese.

申込 : 事前申込は不要です。直接会場にお越しください。No need to pre-register.

司会／Chairperson : 清水裕子 (立命館大学) Prof. Yuko Shimizu of Ritsumeikan University

講師と演題・概要／Speakers and Themes :

(1) 竹内 理 (関西大学) Dr. Osamu Takeuchi of Kansai University

「Brain-imaging と英語教育研究—NIRS を使った L2 読解研究を中心として」

## Brain-imaging and EFL Research: Some Findings in NIRS Studies on Reading

概要：

本発表では、NIRS 装置を利用した L2 読解に関わる 4 つの研究を概観する。まず Brain-Imaging (BI) の装置 (NIRS 等) について簡単に説明したのち、(1) L2 読解方略の脳内基盤がワーキング・メモリ(WM)にあるとする Macaro (2006) の仮説を検証する。続いて(2) WM に認知的負荷をかけるのは学習方法(この場合は音読)だけではなく、題材の難易度でもあることを明らかにし、両者の相互関係から WM 活性化を論じる必要があることを示す。3 つ目として、(3) 読解テストの違いにより脳内活性部位が異なることを示し、BI 研究では測定用具の選定が重要になることを示す。最後に (4) BI 研究を行う上で研究手法の工夫(データ収集や統計分析、質的方法)について言及する。

(2) 石川慎一郎(神戸大学) Dr. Shin'ichiro Ishikawa of Kobe University

「日本人英語学習者による L1 処理と L2 処理：MRI 実験の知見から」

## L1/L2 Processing by Japanese Learners of English: An MRI-based Study

概要：

私たちは英語の語彙をどのようにして理解しているのでしょうか。英語のよくできる人と英語の苦手な人で処理の仕方はどのように異なるのでしょうか。あるいは、そもそも日本語の語彙理解と英語の語彙理解に違いはあるのでしょうか…

発表者は、これまで、各種の語彙テスト調査、学習者コーパスの構築・分析、教授実験、反応速度実験、脳実験など、さまざまな定量的・定性的手法を組み合わせ、日本人英語学習者の L2 語彙の理解と使用に関わる諸相を研究してきました。それぞれの研究アプローチには長所・短所がありますが、特定の語彙処理課題の実行に伴う脳内の賦活を可視化してくれるという点において、MRI (magnetic resonance imaging) 装置を用いた実験アプローチはユニークなものであると言えます。

本発表では、言語処理プロセスの測定機器として見た場合の MRI の特性を概観した後、機能的 MRI 撮像法を用いた過去の実験結果の一部をご紹介します。

◇関連文献の一部

Ishikawa, S., & Wei, Q. (2009). Brain imaging for SLA research: An fMRI study of L2 learners' different levels of word semantic processing. *Brain Topography and Multimodal Imaging* (Kyoto University Press), pp. 41-44.

石川慎一郎(2009)「第2言語習得研究と脳科学：MRI 実験の知見から」『システム／制御／情報』(システム制御情報学会学会誌), 53(4), 143-148.

Ishikawa, S. (2010). L2 learners' interlingual word translation: A behavioral and brain imaging study. *ARELE*, 131-140.

石川慎一郎・魏強(2010)「L1 語彙の音韻処理と意味処理」*Language Education and Technology*, 47, 227-242.